使ってくれる人がいるから―。自然に感謝し地域と共に

写真：上・中「常念の森」での作業　下 昨年11月に開かれた里山市
右 製品に加工される前の丸太をバックにSDGsに取り組む社員が大集合

SDGs推進企業に登録し、2030年までの目標達成に向けて活動する林友ハウス工業(株)の寺西さんに取り組みや思いを聞きました。

木材を通じた地域貢献から

森林や自然の恵みに感謝し、木材の利用促進を通じた社会貢献を――。これを理念に掲げる林友ハウス工業(株)は、安曇野の自然の中にあります。林の中にある環境を生かし、地域の林業者と連携しながら地域材利用の仕組み作りを行っています。

令和5年6月、企業の強みを生かし、持続的な地域貢献を続けようと県のSDGs推進企業に登録しました。同時に「ウッドバリュー2023―木の価値―」をキャッチフレーズに2030年までの長期ビジョンを定め、10のチームでSDGsやDX、新商品開発などへ精力的に取り組んでいます。

自然を守り、大切さを知る

当社が販売している地元材のカラマツを使った外壁材は、長持ちする上に、傷んだ場所だけ取り外しできるので、メンテナンスコストと環境負荷が少ないのが特徴です。さらに、製品を作る際に出る「おがくず」も市内での活用の循環が生まれています。牧場に運び、牛のベッドとして使った後、肥料として再利用。今後は、この肥料を使って育てた木を木材に加工し、児童館や学校などで利用するといった広がりが生まれるといいなと思っています。特に、子どもたちと一緒に植樹をし、木と共に成長を感じてもらうなど環境教育も含めた取り組みができたらと未来を夢見ています。

また、敷地内にある「常念の森」が松くい虫の被害で枯れたため、自生する木を育てる取り組みを平成27年から社員全員で行っています。年2回行うこの活動は、（↖）木材を扱う私たち社員が森林の大切さを学ぶ場にもなっており、日々のモチベーションにもつながっています。2030年までにさらに広葉樹を植林し、森をよみがえらせたいと思っています。

使う人の憩いとなるように

毎年、当社の敷地で市が事務局となっている「さとぷろ。」と一緒に開催している里山市は本年度で8回目となりました。自然と人のつながりの良さを伝える機会として毎回楽しみにしていますし、今後もさらに盛り上げていきたいと思います。

ほかの産地と比べて強度が高い物が多く取れる県内のカラマツ材。カラマツは使えば使うほど木の味が出てきます。この宝物をさらに大切にしながら、地域材利用などを通じた地域貢献を行っていきたいです。また、「使ってくれる人がいるから生産できる」と日々感じています。市や地域の皆さんと関わり、喜んで長く使ってもらい、生活の憩いの一つとなるような製品作りを今後も続けます。

商品を使っているお客さんから「かっこいいね」と言われる製品を作り続けたいです。

林友ハウス工業(株)
寺西 勝さん

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

持続可能な社会のためにできるアクションガイド

SDGsと言われても「貧困をなくそう」「安全な水とトイレを世界中に」など壮大な目標でどう関わったら良いか実感が沸かないかもしれません。しかし、変化は一人一人から。身近にできる取り組みを紹介します。

LEVEL 1　ソファの上でできること

電気機器を使っていないときは完全に電源をオフに。また、紙を削減すれば森林破壊を防げます。インターネットなどで人と地球にやさしい取り組みの発信を。

LEVEL 2　家にいてもできること

紙やプラスチック、ガラス、アルミをリサイクルすれば、埋立地を増やす必要がなくなります。食べ物の無駄をなくすため、生鮮品や食べきれない時は早めの冷凍を。

LEVEL 3　家の外でできること

買い物は地元で。地域の企業を支援すれば雇用が守られます。大きさや形、色が規格に合わないというだけで捨てられてしまう野菜や果物を「訳あり品」で購入を。

LEVEL 4　職場でできること

職場で差別があったらどんなものでも声を上げよう。性別や人種、性的志向、社会的背景、身体的能力に関係なく人はみんな平等です。

出典：国連広報センター「持続可能な社会のために
ナマケモノにもできるアクション・ガイド」（抜粋）

INFORMATION

「広報あづみの」や市が作成するチラシ・パンフレットにSDGsのロゴを表示しています

市では、SDGsへの取り組みの一つとして「広報あづみの」の特集ページや主なお知らせ、市からのチラシ、ポスターに17のゴールロゴを表示しています。
問政策経営課 TEL71-2401